

教科名	国語	科目名	現代文 B	履修クラス	2年全クラス	
				担当者		
使用教科書		「現代文 B」三省堂			履修単位数	2
副教材等		「改訂版プログレス現代文総演習 標準編」いっずな書店 「プレミアムカラー 国語便覧」数研出版「改訂版評論速読トレーニング 1500」数研出版 「三訂版入試頻出漢字+現代文重要語彙 TOP2500」いっずな書店 「高校生必修語彙ノート 改訂版」桐原書店 「共通テスト国語対策問題集 入門」桐原書店 「高校生のための現代文ガイドダンスちくま評論文の読み方」筑摩書房 「現代文 100 字要約ドリル 入門編第 2 版」駿台文庫				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
論理的な文章では、叙述に即して内容を的確に読み解き、筆者の考えを客観的にとらえる。文学的な文章では、人物、情景、心情を表現に即して読み味わい、豊かな心情や感性を養う。	様々な文章を学習することで、読み・書く・話す能力が身についたかを評価する。 定期考査・小テスト・提出物・週末課題・学習意欲等を総合的に判断し、評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 18	『ミロのヴィーナス』	<ul style="list-style-type: none"> 本文の着眼の仕方や発想に注目し、腕の持つ特有の意味についての筆者の考えを読み取る。 人間が虎になるという虚構を通して、表に現れたものでは知りえない、人間存在の内奥について考える。
5		『山月記』	
6	期末考査まで 21	『病と科学』	<ul style="list-style-type: none"> 近代科学（医学）の発達と病の問題をとおして生命について考察する。iPS 細胞や尊厳死の問題についても触れる。 様々な詩を読み、抒情世界の広がりや奥行を学ぶ。また、言語感覚を磨き、いろいろな表現方法を知り、想像力を育成する。
7		『永訣の朝』他	
9	中間考査まで 21	『夏の花』	<ul style="list-style-type: none"> 小説を通じて原爆の悲惨さを理解する。長崎修学旅行の予備知識としての学習を兼ねる。 さまざまな物事に対する判断やものの見方について考える。 南北問題について考え、現代社会の問題点に着眼させる。
10		『南の貧困・北の貧困』	
11	期末考査まで 21	『こころ』	<ul style="list-style-type: none"> 日本近代文学の代表的な作品を読み、その現代に通じる問題意識を読み取ることで、作品主題の普遍性を理解する。 作中人物の人間関係を通して人生への関心を深め、自己の形成に資する。
12			
1	学年末考査まで 24	『ネット上の発言の劣化について』	<ul style="list-style-type: none"> ネット時代背景を踏まえて評論を読み、現代人の生き方を考え、これからの社会の理解を深める。 筆者の論理の構成をとらえ、「空白」「白」の持つ意味を読み取る。抽象的な概念を理解し、3年生になって学ぶ高度な評論に備える。
2		『空白の意味』	
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
現代文で学ぶ文章には、随想・評論・小説・詩などさまざまなタイプがある。必ず予習すること。そのうえで授業に集中し、復習をする。ただ受動的に授業を聞いているのではなく、積極的に疑問を持ち、語彙を増やし、自分で様々な問題について自ら考えること。現代文では、論理的な思考の訓練と感性の育成、そして漢字・語彙などの知識の習得を目指します。進学のための学習はもちろん、もっと先の広い意味での学問です。社会に出て、一生困らない常識と判断力を身につけることを目標にします。

教科名	国語	科目名	古典A	履修クラス	2年理系クラス	
				担当者		
使用教科書		大修館書店「古典A物語選」改訂版			履修単位数	2
副教材等		「プレミアムカラー国語便覧」(数研出版)、「八訂版体系古典文法」「改訂版体系古典文法学習ノート」(数研出版)、「つながる・まとまる古文単語 550PLUS」(いいずな書店)、「必携 新明説漢文」(尚文出版)「新明説漢文シリーズ基本練習ノート」(尚文出版)、「3ステップオリジナル問題集 新装版 基礎古典(古文・漢文)」、「三訂版 古典文法習得のための助動詞マスターノート」「改訂版 古典文法習得のための助動詞マスターノート」(数研出版)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
日本の古典文学として、古文と漢文を読む能力を養い、ものの見方・感じ方を広げる。 日本文化の特質や、日本文化と中国文化との関わりについて考え、伝統文化に関心をもつ。	古文・漢文の読解力、理解力が身についたかを評価する。 定期考査・小テスト・提出物・学習意欲等を総合的に判断し、評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 12	古文:説話・随筆	「檢非違使忠明のこと」や「十訓抄」(大江山)など有名で分かりやすい教材で、古典を読む楽しさを感じ、読む能力を養う。 「枕草子」の作品などで古典世界のものの感じ方や見方を学ぶ。 文法事項 1年次の復習として、用言の活用と助動詞について学ぶ。
5			
6	期末考査まで 14	古文:随筆・物語1	「方丈記」「徒然草」などを通して無常観や滑稽話など古典世界の豊かな世界を味わう。 「竹取物語」「伊勢物語」など、伝記物語や歌物語で和歌の約束事や表現技巧を復習する。 文法事項 用言の活用、助動詞の理解を深める。
7			
9	中間考査まで 14	古文:物語2	平安文学の高い峰である「源氏物語」を読み、宮廷の生活や貴族のありようなどを理解する。 文法事項 文中に頻出する敬語を復習し、理解を深める。
10			
11	期末考査まで 14	漢文	漢文の基本的な訓読や読み下しの約束事などを復習し、「故事」など比較的短い作品で漢文独特の表現や考え方を理解する。 「史伝」などを教材に、中国文化や歴史にも興味関心をもたせる。
12			
1	学年末考査まで 16	古文:物語3 漢詩・思想	漢詩の約束事の復習や独特の感じ方、表現技巧を復習する。 論語など中国文化そのものと日本への影響などを学ぶ。 「大鏡」など歴史物語で人間の行動原理や考え方を学ぶ。 文法事項 一年間の復習と助詞の用法を学ぶ。
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
古典を読むことで、日本の歴史や文化・伝統への関心が深まり、また、自分自身のものの見方・考え方が広がっていき、人生が豊かになります。古典を読むためには、古典文法、古典単語、古典常識を理解し、自分で文章読解を進めていく必要があります。日々の予習、復習を着実に積み重ねて下さい。

教科名	国語	科目名	古典 B	履修クラス	2年文系全生徒
				担当者	
使用教科書		「高等学校改訂版古典 B」(古文編)「高等学校改訂版古典 B」(漢文編) 第一学習社		履修単位数	4
副教材等		「プレミアムカラー国語便覧」数研出版「体系古典文法八訂版」数研出版「古文単語 500PLUS」いっずな書店「古典速読トレーニング基礎」数研出版「古典文法習得のための助動詞マスターノート」数研出版「古典文法習得のための用言活用ノート」数研出版「3ステップオリジナル問題集基礎古典」尚文出版「新明説漢文シリーズ基本練習ノート」尚文出版			

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
日本の古典文学として、古文と漢文を読む能力を養い、ものの見方・感じ方を広げる。 日本文化の特質や、日本文化と中国文化との関わりについて考え、伝統文化に関心をもつ。	古文・漢文の読解力、理解力が身についたかを評価する。 定期考査・小テスト・提出物・学習意欲等を総合的に判断し、評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 24	古文 「説話」	〈古文〉 ・物語に生き生きと描かれている事件や人物の様子を読解し、古典文学への興味関心を深める。 ・徒然草、方丈記などにみられる世界観、無常観などを学ぶ。 ・文法基本的事項、用言・助動詞を中心に復習する。
5		漢文 「故事」	
6	期末考査まで 28	古文 「随筆」	〈漢文〉 ・故事成語や名句を読解する中で人生の真理や、人として生きていくための知恵を学び、漢文に対する関心を深める。 ・送りがな・返り点の基礎を復習し訓読するための知識を着実に習得する。 ・基本句形を学び、基礎力を養う。
7		漢文 「古代の史話」	
9	中間考査まで 28	古文 「源氏物語」	〈古文〉 ・文章のリズムや表現の面白さを味わい、筆者の美意識や感性を理解する。 ・当時の宮廷での生活や文化を学ぶ。 ・用言(動詞・形容詞・形容動詞)を中心とした重要古語をマスターし、読解力を身につける。
10		漢文 「項羽と劉邦」	
11	期末考査まで 28	古文 「大鏡」	〈漢文〉 ・名文と謳われる『史記』を読解し、漢文への興味関心をさらに深める。 ・生き生きと描かれている登場人物の性格や運命を読み取りながら、漢文の面白さや漢文を学ぶことの大切さを知る。 ・漢詩に特有な表現技巧や形式を学ぶ。
12		漢文 「漢詩」	
1	学年末考査まで 32	古文 「日記」	〈古文〉 ・日記文学の特色を学ぶ。 ・軍記物語などの写実的で歴史的な背景をふまえて物語に描かれている事件や人物の様子を読解し、古典文学への興味関心をさらに深める。 ・敬語を中心とした語彙知識を深める。
2		漢文 「志怪と伝奇」	
3		〈漢文〉 ・漢文の読み物としての面白さを体験する。 ・漢文のもつ簡潔さを感得する。	

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
古典を読むことで、日本の歴史や文化・伝統への関心が深まり、また、自分自身のものの見方・考え方が広がっていき、人生が豊かになります。古典を読むためには、古典文法、古典単語、古典常識を理解し、自分で文章読解を進めていく必要があります。日々の予習、復習を着実に積み重ねてください。

教	数学	科	数学Ⅱ	履修クラス	2年全クラス
---	----	---	-----	-------	--------

科名		目名		担当者	
使用教科書	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)			履修単位数	4
副教材等	4プロセス数学Ⅱ (数研出版)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
○数学Ⅰ・数学Ⅱの理解をもとに、さらに計算力の向上を目指す。 ○基礎・基本の定着を図り、生徒に数学の知識と原理的にものごとを考える力をつけさせることを目標とする。	○例題や問題のが解けるだけでなく、数学に対して想像力を発揮し、独創的な考え方取り組むものを高く評価する。 ○定期テストはもちろん、出席状況や平常の学習態度、宿題提出や小テストなども評価の対象である。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間検査まで24	第1章 式と証明	<ul style="list-style-type: none"> ● 3次式の展開と因数分解 二項定理 ● 整式の割り算 分数式とその計算 ● 恒等式 ● 等式の証明 不等式の証明
5		第2章 複素数と方程式	<ul style="list-style-type: none"> ● 複素数とその計算 ● 2次方程式の解・解と係数の関係 ● 剰余の定理と因数定理 ● 高次方程式
6	期末検査まで28	第3章 図形と方程式	<ul style="list-style-type: none"> ● 直線上の点・平面上の点 ● 直線の方程式 2直線の関係 ● 円の方程式 ● 円と直線・2つの円の交点を通る図形 ● 軌跡と方程式 ● 不等式の表す領域
7			
9	中間検査まで28	第4章 三角関数	<ul style="list-style-type: none"> ● 角の拡張 ● 三角関数 三角関数のグラフ ● 三角関数の性質 三角関数の応用 ● 三角関数の加法定理 ● 加法定理の応用
10			
11	期末検査まで28	第5章 指数関数と対数関数	<ul style="list-style-type: none"> ● 指数の拡張・指数関数 ● 対数とその性質 ● 対数関数・常用対数
12			
1	学年末検査まで32	第6章 微分と積分	<ul style="list-style-type: none"> ● 微分係数・導関数とその計算 ● 接線の方程式・関数の増減と極大・極小 ● 関数の増減・グラフの応用 ● 不定積分・定積分 ● 定積分と図形の面積
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<p>●問題文を正しく読み解く力を身につける。特に、解くための方針や基礎技能の習熟を大切にする。</p> <p>●例題は解法を徹底的に理解する。●演習問題は、「①すぐに解けた」「②まねをして解けた」「③全くわからなかった」に分類し、「③できない」を「②わかる」に、「②わかる」を「①必ずできる」になるよう繰り返し解く。●予習(例題を書き写すだけでもよい)をして授業に臨むと板書を写すだけにならず理解が高まる。●検査前の演習は、解答が再現できるまで複数回行い課題等は期限内に100%提出すること。●解説・段取りを確認し、答合わせを丁寧に行うこと。●数学受験を目指す者は参考書(Focus Goldやチャート式)の購入が望ましい。●模試なども複数回解きなおい、身につける習慣をもつ。</p>

教科 名	数学	科 目 名	数学B	履修クラス	2年理系選択クラス
				担 当 者	
使用教科書	高等学校 数学B (数研出版)			履修単位数	2
副教材等	4プロセス数学B (数研出版)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
○数学Ⅰ・数学Aの理解をもとに、さらに計算力の向上を目指す。 ○数列やベクトルを通して、数的把握・空間把握できる能力を高める。	○例題や問題が解けるだけでなく、数学に対して想像力を発揮し、独創的な考え方に取り組むものも、高く評価する。 ○定期テストはもちろん、出席状況や平常の学習態度、宿題提出や小テストなども評価の対象である。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考 査 ま で 1 2	第1章 平面上のベ ク ト ル	<ul style="list-style-type: none"> ● ベクトル ● ベクトルの和・差・実数倍 ● ベクトルの成分 ● ベクトルの内積
5			
6	期 末 考 査 ま で 1 4	第1章 平面上のベ ク ト ル	<ul style="list-style-type: none"> ● 位置ベクトル ● 位置ベクトルと図形 ● ベクトル方程式
7			
9	中 間 考 査 ま で 1 4	第2章 空間座標と ベクトル	<ul style="list-style-type: none"> ● 空間における直線・平面の位置関係 ● 空間の点の座標 ● 空間のベクトル ● 空間のベクトルの内積 ● 位置ベクトル漸化式
10		第3章 数列	
11	期 末 考 査 ま で 1 4	第3章 数列	<ul style="list-style-type: none"> ● 和の記号Σ ● 累乗の和 ● 階差数列 ● 数列の和と一般項 ● いろいろな数列の和
12			
1	学 期 末 考 査 ま で 1 6	第3章 数列	<ul style="list-style-type: none"> ● 漸化式 ● 数学的帰納法
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> ● 理系に進む者として、定義・基礎概念や成り立ちを根本から理解することが応用力の基礎である。 ● 例題・問題演習などは、まずは自分で考える。さらに素早く処理できるまで丁寧にやりこむこと。 ● 家庭学習：数学は計算力を落とさないためにも毎日1時間は勉強する。具体的には、毎回の授業のあと教科書傍用問題集の該当部分を一通り終わらせる。定期考査前には2回目の問題演習を行い、手早く処理できるよう繰り返す。課題等は期限内に100%提出できることになる。 ● 受験科目に数学Ⅲ、数学Bがある者は参考書(FocusGoldやチャート式等)の購入が望ましい。

教科 名	英語	科 目 名	English Expression II	履修クラス	2年全クラス	
				担 当 者		
使用教科書		Vision Quest English Expression II Ace (啓林館)			履修単位数	2
副教材等		Vision Quest English Expression II Ace NEW WORKBOOK (啓林館) スクランブル Basic トレーニング問題集 (旺文社) 英語の構文 (美誠社) ユメリス 1 (アルク) Listening Pilot 2.5 (東京書籍)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
言語や文化の理解をして事実や意見を多様な観点から考察し、文法事項を駆使して、また辞書・参考書等を活用し、英文を正確に理解できる力を養う。 論理の展開や表現方法の工夫しながら自分の意見や考えを伝える能力を伸ばす。	定期考査・長期休業明けの学力診断テスト・小テスト・提出物・ 問題演習を含む授業への取り組み状況などを総合的に判断し、評価する。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 12	<Part1> Lesson 1~Lesson 4 スクランブル	Lesson 1 主語を決める、Lesson 2~3 動詞を決める Lesson 4 動詞を決める
5		ユメリス 1	1~2 UNIT 1~4
6	期末 考査 まで 14	Lesson 5~Lesson 8 スクランブル	Lesson 5~7 動詞を決める、 Lesson 8 動詞の形を決める
7		ユメリス 1	3~4 UNIT 5~8
9	中間 考査 まで 14	Lesson 9~Lesson 12 スクランブル	Lesson 9~Lesson 11 動詞の形を決める Lesson 12 助動詞を使う
10		ユメリス 1	5~6 UNIT 9~12
11	期末 考査 まで 14	Lesson13~Lesson 16 スクランブル	Lesson13~16 修飾語を加える
12		ユメリス 1	7~8 UNIT 13~16
1	学年 末考 査ま で 16	Lesson 17~Lesson 20 スクランブル	Lesson17 修飾語を加える Lesson18~19 比較を表す Lesson20 否定を表す
2		ユメリス 1	9~10 UNIT 17~20
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
1 学年時に習得した文法事項を再度、切り口を変えて学ぶことがこの授業の要点です。またその知識が実際の試験にどのような形で問われているのかを、コミュニケーションⅡで使用する教材とも関連付けながら確認していきます。教科書「Vision Quest English Expression II Ace」だけでなく、スクランブルのトレーニング問題集も併用します。文法の修得は繰り返しの訓練が鍵になりますので、粘り強くやり直して下さい。また、「ユメリス1」を使ってディクテーションなども行い、4 技能をバランスよく伸ばしていきます。「ターゲット」は昨年同様に朝学習で小テストを行いますので、計画的にどんどん覚えて語彙を増やしましょう。

教科 名	英語	科 目 名	English Communication II	履修クラス	2年全クラス
				担 当 者	
使用教科書		LANDMARK English Communication II (啓林館)		履修単位数	4
副教材等		LANDMARK English Communication II 予習ノート・LANDMARK English Communication II WORKBOOK Standard (啓林館) Rapid Reading (美誠社) 英検分野別 10分ドリル (旺文社) 英文法基礎 10題ドリル (駿台文庫) ターゲット 1200 と 1900			

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
Reading・Speaking・Listening・Writing の 4 技能を学び、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。また、その成果を英検 2 級合格という結果につなげる。	定期テストの他、長期休業明けの学力診断テスト、スペリングコンテスト、随時行う小テスト、提出物等を総合的に判断し、評価する。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 24	Lesson 1 Lesson 2 英検分野別 10 分ドリル Rapid Reading I	I'm the Strongest! Tokyo's Seven-minute Miracle 英作文①、英作文②、第 1 回～第 3 回、第 17 回、第 20 回 第 14 回～第 17 回
5		Lesson 3 Lesson 4 英検分野別 10 分ドリル Rapid Reading I / II	Saint Bernard Dogs Chanel's Style 英作文③、英作文④、第 4 回～第 6 回、第 18 回、第 21 回 第 18 回～第 20 回 / 第 1 回
6	期 末 考 査 ま で 28	Lesson 5 Lesson 6 英検分野別 10 分ドリル Rapid Reading	Science of Love Gaudi and His Messenger 第 7 回～第 8 回、第 19 回、第 22 回 第 2 回～第 5 回
7		Lesson 7 Lesson 8 英検分野別 10 分ドリル Rapid Reading	Letters from a Battlefield Edo: A Sustainable Society 第 9 回～第 10 回 第 6 回～第 10 回
9	中 間 考 査 ま で 28	Lesson 9 Lesson 10 英検分野別 10 分ドリル Rapid Reading	AI and Our Future Bhutan: A Happy Country 第 11 回～第 12 回 第 11 回～第 15 回
10			
11	期 末 考 査 ま で 28		
12			
1	学 年 末 考 査 ま で 32		
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
授業の進度は 1 年生の時より早くなります。その分、予習・復習の家庭学習時間をより長く毎日確保することが必要になります。教科書対策としては配布される予習ノートとワークブックを日頃からしっかり活用することが大事です。予習用として予習ノート、復習としてワークブックを試験前だけでなく日頃からしっかり活用しましょう。また、英検 2 級対策の時間があります。知らなかった単語や構文、解けなかった問題などをまとめた復習ノートをしっかり作り 1 つ 1 つ知識や理解を深めていきましょう。その先に英検 2 級合格があります。ぜひ 2 年生で英検 2 級を取得しましょう。

教科名	地理歴史	科目名	世界史B	履修クラス	2年必履修選択	
				担当者		
使用教科書		詳説世界史B 改訂版 (山川出版社)			履修単位数	2
副教材等		最新世界史図説 タペストリー (帝国書院)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
帝国主義時代から戦後史の世界史の大きな流れと特質を理解し、現代の諸問題との関係を考察し、歴史的思考力を養う。	定期考査の成績を基本にしながら、授業ノート及び授業プリントの提出状況や授業に取り組む姿勢を加味して総合的に評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 11	欧米における近代国民国家の発展 アジア諸地域の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 ・南北アメリカの発展 ・オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 ・南アジア・東南アジアの植民地化
5			
6	期末考査まで 12	アジア諸地域の動揺 帝国主義とアジアの民族運動	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアの激動 ・帝国主義と列強の対立 ・アジア諸国の改革と民族運動
7			
9	中間考査まで 11	帝国主義とアジアの民族運動 二つの世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> ・世界分割と列強対立 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国
10			
11	期末考査まで 12	二つの世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア・アフリカ地域の民族運動 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ・第二次世界大戦
12			
1	学年末考査まで 14	冷戦と第三世界の自立	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の自立 ・米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 ・第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<p>興味・関心を高める事はもちろん、歴史的事項の定着を図るために、歴史地図や図版・写真を参照・利用することを心がけ、授業で扱った歴史用語・事件の調べ学習をおこなうこと。</p> <p>板書事項はもちろんのこと、授業のポイントや補足事項を書き留めるなどして、自分自身が理解しやすいプリントを含むノート作りを心がける。</p> <p>家庭では、特に復習と定期考査や小テスト前の学習に積極的に取り組む。</p>

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	履修クラス	2年文系クラス	
				担当者		
使用教科書		『詳説日本史』(山川出版社)			履修単位数	4
副教材等		『図説日本史通覧』(帝国書院)、『日本史重要語句チェックリスト』(啓隆社)				

学習のねらい	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象を正しく理解すること。 ・教科書・資料集を用い、知識に基づいた考察ができること。 ・現代の様々な課題とのつながりを考えられること。 	定期考査の得点を主体に、授業ノート及び授業プリントの提出状況、小テスト、授業態度などを加味して総合的に評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 24	近世①	第6章 幕藩体制の確立(織豊政権～江戸時代前期)
5			第7章 幕藩体制の展開(江戸時代中期)
6	期末考査まで 28	近世②	第7章 幕藩体制の展開(江戸時代中期)
7			第8章 幕藩体制の動揺(江戸時代後期)
9	中間考査まで 28	近代①	第9章 近代国家の成立(幕末～明治)
10			
11	期末考査まで 28	近代②	第10章 二つの世界大戦とアジア(大正～昭和戦前期)
12			
1	学年末考査まで 28	近代③ 現代	第11章 占領下の日本(1945年～1952年)
2			第12章 高度成長の時代(1950年代～1970年代)
3			第13章 激動する世界と日本(1970年代以降)

担当者からのメッセージ (授業の受け方)
<p>歴史は、これまで生きてきた沢山の人々の思考と行動の結果が積み重なったものです。なぜその選択をしたのか?その結果、どうなったのか?世界史的な背景は?別の立場から考えると?様々な視点で歴史上の出来事を捉えていきましょう。大切なのは、①知識(事実を正しく理解すること)②思考(受け身にならず自分で考えること)です。積極的な姿勢で授業に参加して下さい。</p>

教科名	地理歴史	科目名	日本史 A	履修クラス	2年理系クラス	
				担当者		
使用教科書		『日本史 A 現代からの歴史』(東京書籍)			履修単位数	2
副教材等						

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
日本列島で展開された近代以降の歴史について、世界的視野から総合的に考察することを通じ、歴史的思考力を培うことを目標とする。	定期考査の得点を主体に、授業プリントの内容、課題等の提出状況、授業態度などを加味して総合的に評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 11	国際環境の変化と明治維新	1. 19世紀世界の動向と日本
5			2. 開国と倒幕 3. 明治新政府の諸改革と社会の変化 4. 明治初期の外交と反政府運動
6	期末考査まで 12	近代国家の成立と国際関係の推移	1. 自由民権運動の展開
7			2. 立憲体制の成立 3. 日清戦争と国際関係 4. 日露戦争前後の世界と日本
9	中間考査まで 11	両大戦をめぐる国際情勢と日本①	1. 帝国日本と第一次世界大戦
10			2. 政党政治と大衆文化
11	期末考査まで 12	両大戦をめぐる国際情勢と日本②	3. 軍国日本への道
12			4. 太平洋戦争と日本
1	学年末考査まで 14	現代世界と日本	1. 現代世界の開幕と日本の戦後改革
2			2. 日本の再建と復興への道
3			3. 米ソ二極構造の世界と国内の再編 4. 高度経済成長の時代 5. 低成長から経済大国へ 6. 冷戦の終焉と日本

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<p>今を生きるとはどういうことだろうか？歴史という世界と一緒にそれを考えていきましょう。</p> <p>「歴史を語ることは、それは起こったことの哲学である。……人間の精神が、あらゆる事実の中に隠れひそんでいる理念を、そしてただの一形式でしかない個々の事実にひそむ思想を捜し求めなければならない。物事はしばしば、ずっと後になってはじめて本当の意味を明らかにするものだ。」(E・フリーデル『近代文化史』序)</p>

教科名	理科	科目名	物理基礎	履修クラス	2年全クラス	
				担当者		
使用教科書		実教出版 新訂版 物理基礎			履修単位数	2
副教材等		実教出版 高校物理基礎 サブノート 改訂版				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
(1) 科学的思考力を育成する。 (2) 大学で物理学を学ぶ基礎を育成する。	<評価の観点>科学的思考力が身についているかどうか。 <評価方法>定期考査を中心に、実験・提出物等を含めて総合的に評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 12	力学	速度・加速度・等加速度直線運動
5			
6	期末考査まで 14	力学	力・作用反作用・運動の法則
7			
9	中間考査まで 14	エネルギー	仕事・仕事率・エネルギー・エネルギー保存則
10			
11	期末考査まで 14	波動	波の性質・縦波横波・重ね合わせ・反射音・うなり・弦の振動・気柱の振動
12			
1	学期末考査まで 16	熱力学	温度・比熱・熱と仕事
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
物理学は「イメージ」「トレーニング」を重視してください。「イメージ」が物理学の示す概念のことです。「トレーニング」は問題を解くことです。どちらも「頭を使う」ことが大切です。物理に限らず「努力する才能」「人に質問する能力」も身につくとよいでしょう。社会はあなたが想像する以上に勉強のできるできないを気にしています。

教科名	理科	科目名	化学	履修クラス	2年必履修選択	
				担当者		
使用教科書		「高等学校 改訂 化学」第一学習社			履修単位数	4
副教材等		「セミナー 化学基礎+化学」第一学習社 「フォトサイエンス化学図録 三訂版」数研出版				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
科学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、科学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。	定期考査・小テスト・実験レポートやノートなどの提出物および授業の取り組み状況を総合的に判断する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 24	物質の状態と変化	電池と電気分解 化学結合と結晶、固体の構造 物質の三態と熱運動、気体、液体間の状態変化
5			
6	期末考査まで 28	物質の状態と変化	気体の性質、気体の状態方程式、混合気体の性質 溶解と溶解度、気体の溶解度 溶液の性質、
7			
9	中間考査まで 28	物質の状態と変化・熱、反応の速さと平衡	コロイド 化学反応と熱・光、 化学反応の速さ、 可逆反応と化学平衡 平衡状態の変化
10			
11	期末考査まで 28	反応の速さと平衡 有機化合物	平衡状態の変化 有機化合物の特徴と構造 炭化水素
12			
1	学年末考査まで 32	有機化合物 高分子化合物	炭化水素 有機化合物の元素分析 酸素を含む有機化合物 天然高分子化合物
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
1年生の化学基礎に比べて授業がハイペースで進み、覚えなくてはいけない項目も増えるため、復習が必須である。家庭学習では購入した問題集を自分で解いて実践力を磨いておくこと。計算問題は答えを覚えても意味がないので、何度も問題を解くことで解法をマスターすること。実験を実施した際のレポートも重要な家庭学習の一つである。提出しない場合は成績に大きく影響する。

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	履修クラス	2年全クラス	
				担当者		
使用教科書		パートナーシップでつくる未来 「新家庭基礎」(実教出版)			履修単位数	2
副教材等		最新生活ハンドブック (第一学習社)				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
家庭経営の立場から、基礎的な知識と技術を総合的・体験的に習得させ、将来を見すえた家庭生活の向上を図る能力を育てる。また、地域の一員として暮らす望ましいあり方を見据え、人との関わりを大切にできる人の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ワークシートやノートの記入内容 各種課題 授業(実習)の取り組み 欠席と遅刻 以上総合的に評価する。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間考査まで 12	人とかかわって生きる	<ul style="list-style-type: none"> 自分らしい生き方と家族 社会の変化と家族 家族に関する法律を知る
5			
6	期末考査まで 14	人とかかわって生きる 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 子どもとかかわる 出産 乳幼児の特徴と親の役割 小物製作(手縫いの基礎、ミシン縫い等) 衣服を着る意味を知る 衣服を選ぶ 被服を選び管理する
7			
9	中間考査まで 14	人とかかわって生きる 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 高齢社会に生きる私たちの暮らし 高齢期を迎えるしくみを知る 高校生(現代)の食生活 栄養と食品との関わり 栄養バランスと食べものの生産について考える。
10			
11	期末考査まで 14	食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 食品の選び方と安全 食事の計画と調理 調理実習 これからの食生活 食文化
12			
1	学年末考査まで 16	住生活をつくる 消費者として自立する 生活設計	<ul style="list-style-type: none"> 快適な住まいを考える 安全で快適な住空間 間取り・インテリア計画 消費者の権利と責任 クレジットカード 消費者問題 持続可能な社会環境 1年間のまとめ
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<p>《授業形態》クラスを前半・後半に分け、1学期と2学期で、担当教員を入れ替えて行う。 上記の例は前半クラスの例で、後半クラスは1学期と2学期の内容が逆になる。3学期は両方同じ内容で、1学期の担当が授業を行う。</p> <p>将来「自立した大人」になるために、自分のあり方や生き方を考えながら授業に臨んでほしい。</p>

教科名	保健体育	科目名	体育	履修クラス	2年男子全クラス	
				担当者		
使用教科書		なし			履修単位数	2
副教材等		「ステップアップ高校スポーツ」 大修館				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動技能や知識の習得 ・自主的精神に満ちた、心身ともに健康な体力づくり ・生涯体育の実践者の育成 	①準備・片付けを含め、いかに積極的・自主的に取り組んでいるか②技能の習熟度③出欠席、以上の3点を踏まえ総合的に評価する。なお、届け出のある欠席でも、欠時数が標準授業時数の1/5を越えた場合には、原則として単位の修得は認めない。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 18	新体力テスト バドミントン	握力、上体起こし、体前屈、反復横とび、持久走、50M走、立ち幅跳び、ボール投げ ハイクリアー、ロブ、ドロップ、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ、サーブ、ゲーム（シングルス、ダブルス）
5			
6	期末 考査 まで 21	体育祭練習 水泳 アルティメット	学年種目、全員リレー練習 バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、クロール、時間泳 パス、キャッチ、戦術、グループ学習、ゲーム
7			
9	中間 考査 まで 21	水泳 ソフトボール バレーボール	100M個人メドレータイム測定、時間泳 キャッチ&スロー、バッティング、シートノック、ゲーム オーバーハンドパス・アンダーハンドパス、レシーブ、サーブ スパイク、ブロック、ゲーム
10			
11	期末 考査 まで 21	バレーボール ソフトボール 持久走	審判法、ゲーム バッティング、シートノック、ゲーム ペース走、3000Mタイム測定
12			
1	学年 末考 査ま で 24	持久走 テニス	3000Mタイム測定、時間走 フォアハンド・バックハンドストローク、ボレー、サーブ、ゲーム
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> ・活動に際しては、互いを尊重し合う気持ちを持つとともに、ルール・マナーの尊重はもちろんのこと健康状態に留意し、怪我など発生しないよう注意する。 ・体育着については、学校指定のものはないので、一般的に運動着として適した伸縮性のあるものを着用する。装身具は一切身に付けない。 ・長期見学の場合は診断書等の書類を提出した上で、見学ノートを作成し毎時提出する。

教科 科 名	保健体育	科 目 名	体育	履修クラス	2年女子全クラス
				担 当 者	
使用教科書		なし		履修単位数	2
副教材等		「ステップアップ高校スポーツ」 大修館			

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動技能や知識の習得 ・自主的精神に満ちた、心身ともに健康な体力づくり ・生涯体育の実践者の育成 	①準備・片付けを含め、いかに積極的・自主的に取り組んでいるか②技能の習熟度③出欠席、以上の3点を踏まえ総合的に評価する。なお、届け出のある欠席でも、欠時数が標準授業時数の1/5を越えた場合には、原則として単位の修得は認めない。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 18	新体力テスト ソフトボール	握力、上体起こし、体前屈、反復横とび、持久走、50M走、立ち幅跳び、ボール投げ キャッチボール、トスバッティング、ノック、ルール確認、ゲーム
5			
6	期末 考査 まで 21	体育祭練習 水泳 卓球	学年種目、全員リレーの練習 バタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、クロール、時間泳 フォアハンド・バックハンド、スマッシュ、サーブ等からゲームの実施
7			
9	中間 考査 まで 21	水泳 テニス バスケットボ ール	100M個人メドレータイム測定、時間泳 フォアハンド・バックハンドストローク、ボレー、サーブ、ゲーム パス、キャッチ、シュート、ドリブル、オフense・ディフェンスフォー メーション、戦術練習、審判法、ゲーム
10			
11	期末 考査 まで 21	テニス バスケットボ ール 持久走	フォアハンド・バックハンドストローク、ボレー、サーブ、ゲーム 審判法、ゲーム パス、キャッチ、シュート、ドリブル、オフense・ディフェンスフォー メーション、戦術練習、審判法、ゲーム ペース走、2000Mタイム測定
12			
1	学年 末考 査ま で 24	持久走 バドミントン	ペース走、2000Mタイム測定、時間走 ハイクリアー、ロブ、ドロップ、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ、サー ブ、ゲーム（シングルス・ダブルス）
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> ・活動に際しては、互いを尊重し合う気持ちを持つとともに、ルール・マナーの尊重はもちろんのこと健康状態に留意し、怪我など発生しないよう注意する。 ・体育着については、学校指定のものはないので、一般的に運動着として適した伸縮性のあるものを着用する。装身具は一切身に付けない。 ・長期見学の場合は診断書等の書類を提出した上で、見学ノートを作成し毎時提出する。

教科 名	保健体育	科 目 名	保 健	履修クラス	2年全クラス	
				担 当 者		
使用教科書		現代高等保健体育 大修館			履修単位数	1
副教材等		図説現代高等保健 大修館				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 各学期の期末考査の素点、提出物、授業態度等を総合的に評価する。 3回の期末試験の合計点が、学年平均の1/2を下回った場合は原則として単位未修得とする。

年 間 授 業 計 画			
月	予定 時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4	中間 考査 まで 6	生涯を通じる健康	思春期と健康 性意識と性行動の選択 結婚生活と健康
5			妊娠・出産と健康 家族計画と人工妊娠中絶 期末考査
6			
7	期末 考査 まで 7		
9	中間 考査 まで 7	生涯を通じる健康	加齢と健康 高齢者のための社会的取り組み 保健・医療制度 医療サービスの活用
10			社会生活と健康
11	大気汚染と健康 水質汚濁と健康 土壌汚染と健康 期末考査		
12			
1	学年 末考 査ま で 8	社会生活と健康	健康被害の防止と環境対策 環境衛生・食品衛生活動 労働災害と健康 職業病と健康 期末考査
2			
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
<ul style="list-style-type: none"> 授業中は私語を慎み、積極的な態度で臨む。 板書は確実にノートに記録し、復習のための資料として活用する。また、欠席した際にはその日の授業内容を確認し、ノート・プリント等も補てんしておく。 課題、レポート等提出物は期日までに提出する。

教科名	芸術	科目名	音楽Ⅱ	履修クラス	2年必履修選択	
				担当者		
使用教科書		MOUSAⅡ（教育芸術社）			履修単位数	2
副教材等		特になし（必要に応じてプリントを配布）				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
生涯にわたり音楽を愛好する力を育てると共に、感性を高め、創造的かつ個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばすことを目標とする。1学年で身に付けた技能を活かし更に伸長すると共に、自ら音楽を生み出す力も育てていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱・器楽・リズム打ちなどの実技試験 ・記録カード等の提出 ・授業態度（欠時・遅刻を含む） 以上の観点から総合的に判断をして評価を行う。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 12	○オリエンテーション ○混声合唱 ○キーボード ○リズム打ち	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の授業についての説明をし、パート分けなどを行う。 ・ドイツリートまたはイタリア歌曲の原語発声を学ぶ。 ・混声合唱を通して発声の基礎を確認し、表現する力を身に付ける。 ・キーボードを使用し、ピアノの基本的な奏法を確認し、簡単な旋律を演奏する。
5			
6	期末 考査 まで 14	○読譜 ○鑑賞 ○日本音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽Ⅰでのリズム打ちを活かし、更に発展したリズム打ちに取り組む。 ・ト音記号・ヘ音記号の混ざった楽譜の音名をすぐに読めるようになる。 ・様々な楽曲を鑑賞し、自分なりに批評する。（管弦楽曲の学習 2）
7			
9	中間 考査 まで 14	○日本音楽 ○混声合唱 ○ギター ○新曲の読譜 ○鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の奏法を確認し、新たな奏法を用いた楽曲を演奏する。 ・楽曲表現の方法を工夫し、作品の内容を伝える歌唱力を身につける。 ・コード奏法の復習と弾き語り実践 ・音名読みとリズム打ちを結びつけ、楽譜を正しいリズムと音名で読譜する練習をする。 ・様々な楽曲を鑑賞し、自分なりに批評する。（能、歌舞伎の鑑賞）
10			
11	期末 考査 まで 14		
12			
1	学年 末 考 査 ま で 16	○合唱祭の練習 ○混声合唱 ○新曲の読譜 ○まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱祭に向けて、課題曲や自由曲を取り上げる。 ・主体的に合唱を創り上げる。 ・音名読みとリズム打ちを結びつけ、楽譜を正しいリズムと音名で読譜できるようになる。 ・ボディパーカッションによるアンサンブルの実践
2			
3			

担当者からのメッセージ（授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等）
<ul style="list-style-type: none"> ・題材に対して毎時間真剣に全力で取り組むこと。各題材での積み重ねが大切です。 ・合唱やアンサンブルではクラスで協力する姿勢を常に心がけること。クラスの和を乱すような行為（私語・怠学など）は減点の対象とする。 ・教室移動があるため、遅刻・忘れ物には特に注意すること。 ・全ての活動に積極的に参加し、音楽を楽しむこと。 ※取り上げる題材や内容は、進度や状況などにより追加・変更することもある。

教科名	芸術	科目名	美術Ⅱ	履修クラス	2年必修選択	
				担当者		
使用教科書		「 高校生の美術 2 」 日本文教出版			履修単位数	2
副教材等		課題に応じて購入。年度初めに教材販売を行う（一人 4000 円程度負担）				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な学習内容に取り組み、美術の奥深さを感じ取り、個性豊かな表現能力を伸ばす。 ・美術と社会の関係を理解し、社会のなかでの美術の役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度ならびに各単元の課題提出、プリント等の提出にて行う。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考査 まで 8	○オリエンテーションならびに手のデッサン（4h）	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介を行い授業集団に馴染むと共にリラックスして実技表現ができるよう環境を整える。 ・鉛筆による素描を通して、各自の描画力・基本的デッサン力を見る。 (学習内容) 鉛筆で「リンゴを持った手」画用紙に手の写生。
5		○デザイン（10h）	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭のポスターを描く、文字や背景、効果的な構成を学ぶ (学習内容) デザインの必要性和表現の多様性を学ぶ
6		○共同制作（6h）	<ul style="list-style-type: none"> ・貼り絵制作を通し根気と協調性を培い、色彩の効果を味わう。名作への理解も深める。 (学習内容) 色の紙を貼り付けて名作を表現、校内に展示する（文化祭）。
7			
9	中間 考査 まで 10	○デザイン（6h）	<ul style="list-style-type: none"> ・モダンテクニックの技法を学び、表現を広げる (学習内容) 各種のモダンテクニックをアクリルガッシュその他を使用し体験する。
10		○絵画表現（14h）	<ul style="list-style-type: none"> ・油絵具を使って応用的な絵画表現を学ぶ。 (学習内容) 校内風景写生における油絵具の扱い方を学ぶ 構図や空間、立体表現、色の混色などを学ぶ。
11	期末 考査 まで 10		
12			
1		○クロッキー（4h）	<ul style="list-style-type: none"> ・人体クロッキーの実際を体験し、緊張感のある描画表現を学ぶ。
2	学期 末 考査 ま で 16	○彫刻表現（12h）	<ul style="list-style-type: none"> ・名作をモチーフとしたはがき箱への浮き彫りとアクリルガッシュによる着色。 (学習内容) 彫刻等の使用法・題材選択の主体的審美眼の動員。
3			
※年間を通して視聴覚教材とプリントを効果的に使用し、古今東西の美術の名作品に触れさせる鑑賞学習を行う。			

担当者からのメッセージ（授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等）
<p>1 学年で学んだ内容を踏まえた発展的な授業になります。</p> <p>進路への意識を高め、美術分野への進路希望者もそうでない人も美術の重要性を感じていく内容を目指します。鑑賞学習や共同制作にも力を入れる予定です。より一層主体的な態度を求めます。</p>

教		科		履修クラス	2年必修履修選択
---	--	---	--	-------	----------

科名	芸術	目名	書道Ⅱ	担当者	
使用教科書	「書Ⅱ」光村図書			履修単位数	2
副教材等	なし				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
書道における表現と幅広い活動を通して書を愛好する心情を育てる。書の文化や伝統について理解を深める。書を通して感性を高め、主体に自己を表現する能力を高める。	各時間・単元毎の提出物による採点。 時間内に自分の能力を存分に発揮した作品作りが出来たかどうか。 忘れ物等を含む授業態度、積極性、作品の完成度。

年間授業計画			
月	予定時数	単元	学習内容・学習活動
4	中間 考 査 ま で 14	篆書の学習	最古の漢字を知る —小篆の学習により、篆書の基本形を学ぶ
5		篆刻の学習	自分の姓名印を篆書体で刻す。書作品における印の役割を理解する
6	学 期 末 ま で 14	篆書の学習	小篆・甲骨文・金文の臨書と鑑賞 —漢字の最も古い形である、甲骨文や金文を学ぶ
7		隸書の学習	隸書「乙瑛碑」「石門頌」の臨書と鑑賞 木簡・竹簡の臨書と鑑賞
9	中 間 考 査 ま で 14	楷書 行書 草書	「皇甫誕碑」「高貞碑」「顔勤礼碑」の臨書と鑑賞 「祭姪文稿」「蜀素帖」の臨書と鑑賞 「書譜」「十七帖」の臨書と鑑賞
10			
11	学 期 末 ま で 14	楷書 行書 草書	今まで学習した各書体・各古典を半切に臨書し作品制作をする 臨書から創作へ —各古典から学んだ表現を生かし、画仙紙のサイズに合った作品作りを学ぶ
12			
1	学 年 末 ま で 16	仮名	日本で生まれた書を学ぶ 「関戸本古今集」「高野切」の臨書と鑑賞
2		漢字仮名交 じりの書	自らの思考や感動を表現できる語句を選び（作り）、用具・用材を工夫し、作品を制作する
3			

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
書Ⅰで学んだ基礎的な書からさらに発展させ、書を通して自分を表現できるような作品作りを行っていきたい。それはただ単に筆と紙を使ってということにとどまらず、生活に活かせる書であったり、心に潤いを与えたり、日本の文化を知り、大切にしていける心を育てることを最終目標としたい。 書道の偏ったイメージはいったん捨てて、積極的に作品作りをしていくことを希望する。